

ルカ 11:33-36  
「本当の光に照らされて」

導入

聖書が言う光、本当の光に照らされると、私たちが、どんなに変われるのでしょうか。

→ エペソ 5:8-9 <あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあつて光となりました。光の子どもとして歩みなさい。v9 あらゆる善意と正義と真実のうちに、光は実を結ぶのです。>

神さまと光 v33

<だれも、明かりをともし、それを穴蔵の中や升の下に置く者はいません。燭台の上に置きます。入って来た人たちにその光が見えるようにするためです。>

私たちに明かりをともしられたのは、神ご自身。その神が、私たちにともされた明かりを、見えにくいままにしておかれるはずがない。

神の光が差し込むと v34

<からだの明かりは目です。あなたの目が健やかなら全身も明るくなります。>

<目が悪いとからだも暗くなります。>

→ マタイ 6:33 <まず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらの者はすべて、それに加えて与えられます。>

私たちの目が、神を、神のご支配をしっかりと見るように。

神の光が差し込まないと v35

<自分のうちの光が闇にならないように気をつけなさい。>

→ ヨハネ I 2:11 <しかし、自分の兄弟を憎んでいる人は闇の中において、闇の中を歩み、自分がどこへ行くのかが分かりません。闇が目を見えなくしたからです。>

神の光の明るさ、豊かさ v36

<もし、あなたの全身が明るくて何の暗い部分もないなら>

→ ヨハネ I 1:7 <もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。>

→ ヨハネ I 1:9 <もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。>

<あなたの全身が明るくて何の暗い部分もないなら>

<明かりがその輝きであなたを照らすときのように>

<輝き> = 「稲妻」

<全身が光に満ちたものとなります。>

#### イエスは世の光

→ ヨハネ 8:12 <イエスは・・・「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことなく、いのちの光を持ちます。」>

#### クリスチャンも世の光

→ マタイ 5:14 <あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。>

→ ピリピ 2:13-16 <神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。v14 すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。v15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代のただ中であって傷のない神の子どもとなり、v16 いのちのことばをしっかりと握り、彼らの間で世の光として輝くためです。>

#### 人間は変わるのか？

・お寺のホームページ

親鸞聖人の和讃(讚美歌のようなもの)の中で、こうおっしゃっている。「浄土真宗に帰すれども／  
真実の心はありがたし(ない)／虚仮不実(空しく、見せかけで、誠実さのない)の我が身にて／清浄  
の心もさらになし／悪性さらにやめがたく／こころは蛇蝎(へびやさそり)のごとくなり・・・」

この生涯最後の和讃を作られたのは親鸞聖人が86歳のとき。仏法を聞き続けても、性根は変わらない。(http://www.syobutsuji.org/teraisan/kouen/kouen04.htmから要約)

・旧約聖書

→ エレミヤ 17:9 <人の心は何よりもねじ曲がっている。それは癒しがたい。だれが、それを知り  
尽くすことができるだろうか。>

人間の心は変わり難いと語っている。

イエス・キリストの十字架の救いは、人間にできないことを、神が人間にされたという福音です。キリストの十字架まで、人類が経験することができなかった、自分の人格が、神の光に照らされて、十字架の血で、  
どんだんきよめられていくという救いです。

今週の聖句 ルカ 11:36 <もし、あなたの全身が明るくて何の暗い部分もないなら、明かりがその輝き  
であなたを照らすときのように、全身が光に満ちたものとなります。>